

COUNTRY OF ORIGIN: JAPAN

PATENT NUMBER: 3059305

DATE OF PATENT: MARCH 17, 1999

APPLICANT: KITO MATAROKU

Abstract

Shoes characterized by connecting the end face section to one side of the quarters 1 and 2 on either side, and having the die length which a point wears and reaches to the quarter of an opposite hand over opening 4, and having the elasticity and elasticity of the die-length direction, having worn the shell accommodation belt 3 which made desorption of the point free with surface fasteners 6 and 7 to the quarter of an opposite hand, and preparing in the anterior part of opening 4.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3059305号

(45) 発行日 平成11年(1999) 7月9日

(24) 登録日 平成11年(1999) 3月17日

(51) Int. CL <sup>6</sup>	識別記号	P I	
A 4 3 B 23/02	1 0 1	A 4 3 B 23/02	1 0 1 B
	1 0 3		1 0 3
	1 0 4		1 0 4
A 4 3 C 11/00		A 4 3 C 11/00	

評価書の請求 未請求 請求項の数3 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願平10-9153

(22) 出願日 平成10年(1998)11月4日

(73) 実用新案権者 394001456

有限会社ケーススタジオ

東京都台東区雷門1丁目16番4号

(72) 考案者 城戸 又六

東京都台東区雷門1丁目16番4号

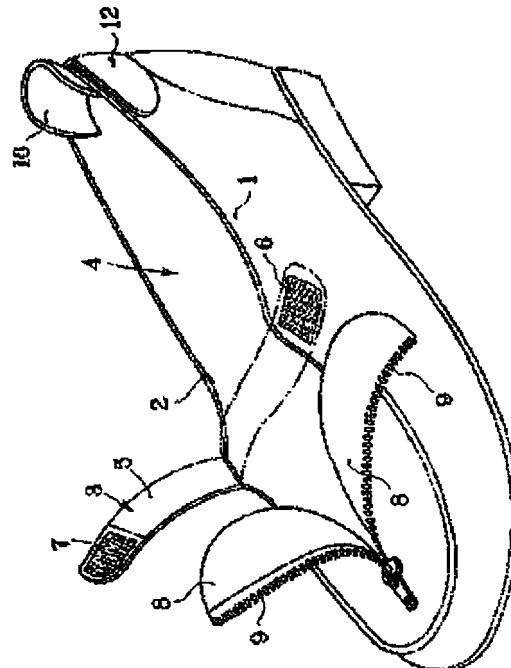
(74) 代理人 弁理士 杉山 泰三

(54) 【考案の名称】 靴

(57) 【要約】

【課題】 履きやすく、かつ、脱ぎやすく、しかも、履いた状態で足の甲が良好なフィット感を得られる靴を提供する。

【解決手段】 左右の腰革1、2の一方に基端部を接続して、先端部が履き口4を越えて反対側の腰革まで達する長さを有し、又、長さ方向の伸縮性及び弾性を有して、その先端部を反対側の腰革に対して面ファスナ6、7により脱着自在とした甲調節ベルト3を履き口4の前部に設けたことを特徴とする。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 左右の腰革1、2の一方に基端部を接続して、先端部が履き口4を越えて反対側の腰革まで達する長さを有し、かつ、長さ方向の伸縮性及び弾性を有して、その先端部を反対側の腰革に対して面ファスナ6、7により脱着自在とした甲調節ベルト3を履き口4の前部に設けたことを特徴とする靴。

【請求項2】 甲調節ベルト3の上に舌草8を被せ、かつ、その舌草8の中央部をスライドファスナ9により開閉自在とした請求項1記載の靴。

【請求項3】 カカト部10の上縁部に割れ目11を設けてカカト部10を左右に分割し、その片側のカカト部に基端部を接続して先端部が割れ目11を越えて反対側のカカト部まで達する長さを有し、かつ、長さ方向の伸縮性及び弾性を有して、その先端部を反対側のカカト部に対して面ファスナ14、15により脱着自在としたカカト調節ベルト12を設け、更に、割れ目11の内側にその割れ目11を塞ぐように下端部のみがカカト部10の内面部に接続してその他はフリーな中カカト片16を設けた請求項1又は請求項2記載の靴。

【図面の簡単な説明】

【図1】 舌草のスライドファスナを開いた状態の斜視図＊

2

＊である。

【図2】 舌草のスライドファスナを閉じた状態の斜視図である。

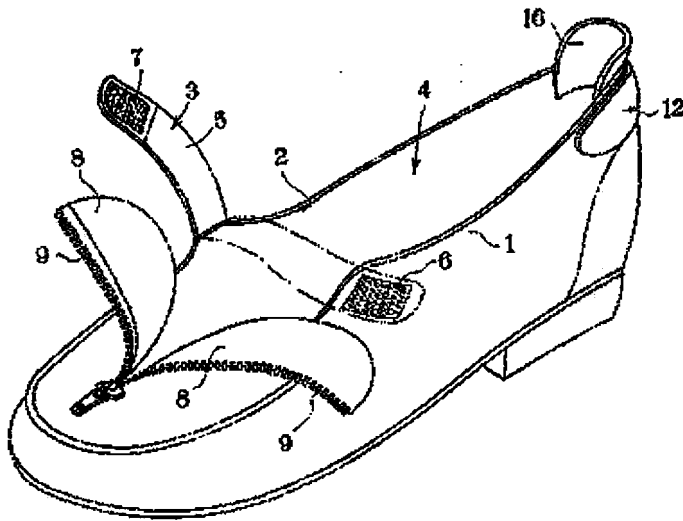
【図3】 図2のA-A線における断面図である。

【図4】 後側のカカト部の斜視図である。

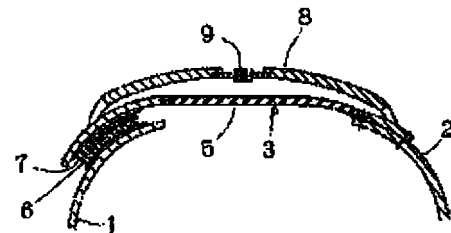
【符号の説明】

- 1 腰革
- 2 腰革
- 3 甲調節ベルト
- 10 4 履き口
- 5 ゴムを用いた帯部
- 6 面ファスナ
- 7 面ファスナ
- 8 舌草
- 9 スライドファスナ
- 10 カカト部
- 11 割れ目
- 12 カカト調節ベルト
- 13 ゴムを用いた帯部
- 20 14 面ファスナ
- 15 面ファスナ
- 16 中カカト片

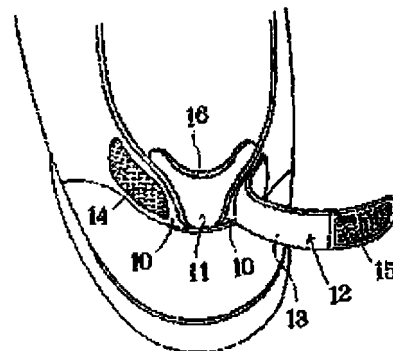
【図1】



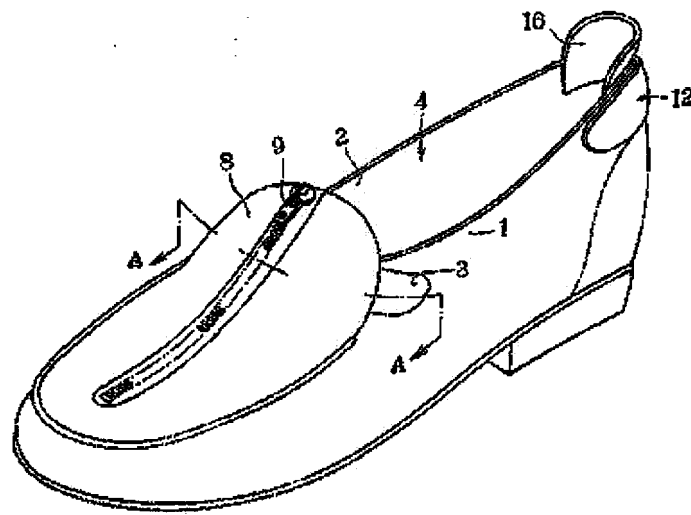
【図3】



【図4】



【図2】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は靴に関する。

**【0002】****【従来技術】**

紐のないスリップオン構造の靴は、紐付きの靴に比べて履きやすく、かつ、脱ぎやすいという利点があるが、その反面、履いた状態で、特に足の甲が良好なフィット感を得られにくいという不満がある。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

そこで本考案は、履きやすく、かつ、脱ぎやすく、しかも、履いた状態で足の甲が良好なフィット感を得られる靴の提供を課題とする。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するために、本考案の靴は、左右の腰革1，2の一方に基端部を接続して、先端部が履き口4を越えて反対側の腰革まで達する長さを有し、かつ、長さ方向の伸縮性及び弾性を有して、その先端部を反対側の腰革に対して面ファスナ6，7により脱着自在とした甲調節ベルト3を履き口4の前部に設けたことを特徴とする、という構成を採るものである。

**【0005】**

なお、上記の本考案の靴は、甲調節ベルト3の上に舌革8を被せ、かつ、その舌革8の中央部をスライドファスナ9により開閉自在とすることが好ましい。

**【0006】**

さらに、上記の本考案の靴は、カカト部10の上縁部に割れ目11を設けてカカト部10を左右に分割し、その片側のカカト部に基端部を接続して先端部が割れ目11を越えて反対側のカカト部まで達する長さを有し、かつ、長さ方向の伸縮性及び弾性を有して、その先端部を反対側のカカト部に対して面ファスナ14，15により脱着自在としたカカト調節ベルト12を設け、更に、割れ目11の

内側にその割れ目11を穿くように下端部のみがカカト部10の内面部に接続してその他はフリーな中カカト片16を設けることが好ましい。

#### 【0007】

##### 【実施例】

以下、図示した実施例について説明する。まず、図1に示すように、履き口4の前端部における右側の腰革2の上端部に甲調節ベルト3の基端部を接続している。この甲調節ベルト3は先端部が履き口4を越えて左側の腰革1まで達する長さを有し、又、両端部を除く中間部がゴムを用いた帯部5で構成されていて、長さ方向の伸縮性及び弾性を有している。なお、靴本体と甲調節ベルト3の両端部は革製である。また、甲調節ベルト3は左側の腰革1の外面上端部に取付けた雄の面ファスナ6に対して脱着自在な雌の面ファスナ7を先端内面部に取付けている。すなわち、甲調節ベルト3は先端部を左側の腰革1に繋ぐことができる。この甲調節ベルト3は、足の大きさに合わせて、伸縮することにより、又は、先端部の面ファスナ7と腰革1の面ファスナ6との接続位置をずらすことによって、甲の幅を広げたり縮めたりしてサイズを調節することができる。

#### 【0008】

次に、図2及び図3に示すように、靴本体の甲部に設けた舌革8が上記の甲調節ベルト3の上に被さって甲調節ベルト3を隠蔽できるようになっている。この舌革8は中央部がスライドファスナ9によって開閉自在となっている。上記の甲調節ベルト3の脱着及びサイズ調整作業は、図1に示すように、スライドファスナ9を開いて舌革8を左右に展開することによって容易に行うことができる。

#### 【0009】

また、図4に示すように、靴本体の後側のカカト部10の上縁部に割れ目11を設けてカカト部10を左右に分割し、カカト調節ベルト12の基端部を割れ目11の右側のカカト部に接続している。このカカト調節ベルト12は、割れ目11を越えて割れ目11の左側のカカト部まで達する長さを有し、又、両端部を除く中間部がゴムを用いた帯部13で構成されていて、長さ方向の伸縮性及び弾性を有している。なお、カカト調節ベルト12の両端部は革製である。また、このカカト調節ベルト12は、割れ目の左側のカカト部の外面部に取付けた雄の面フ

ファスナ14に対して脱着自在な踵の面ファスナ15を先端内面部に取り付けている。また、割れ目11の内側には下端部のみがカカト部10の内面部に接続してその他の部位はフリーな舌状の中カカト片16を設けている。すなわち、この中カカト片16は割れ目11を塞ぐように位置している。カカト調節ベルト12は上記の甲調節ベルト3と同様にカカト部のサイズ調節機能を有する。なお、中カカト片16は足の踵の後側をカバーして、割れ目11を設けたことによる弊害を解消することができる。

#### 【0010】

上記の実施例では、靴本体が革製になっていて、腰革や舌革等の「革」という文字を含む名称を用いているが、本考案の靴は革製のものに限定するものではなく、材料は自由であり、革以外の、例えば、布などを用いた靴も当然含むものとする。

#### 【0011】

##### 【考案の効果】

本考案の靴は上記の通りであり、請求項1記載の甲調節ベルト3を設けることによって、足の大きさに合わせて、甲の幅を調節することができて、足の甲に対するフィット感を向上させることができる。また、甲調節ベルト3の先端部を腰革から分離することにより履き口4を拡大できるので、履いたり脱いだりすることが容易になるという利点もある。

次に、請求項2記載の舌革8を設けることによって、甲調節ベルト3をその舌革8で隠蔽できるので、外観の見栄えが良くなるという利点がある。また、その舌革8は中央部を開くことができるので、甲調節ベルト3の脱着や調節作業がやりやすいという利点がある。

また、請求項3記載のように構成することにより、足の踵の出し入れが容易化するとともに、足の踵に対するフィット感も向上する。